

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0371300203		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	岩手県二戸市似鳥字上平15-1-2 (電話) 0195-20-1020		
評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年9月10日	評価確定日	平成20年10月17日

## 【情報提供票より】(平成20年7月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	3月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8 人	常勤	8人、非常勤	人、常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1	階建ての	1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱費9000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900円

### (4) 利用者の概要(平成20年7月23日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.1歳	最低	71歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立二戸病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然を残し、四季折々の美しい風景を感じさせられる小高い丘に、グループホームアミーチと併設の特養がある。このホームは「潤いと安らぎのコミュニティー」そして「共に生活する喜び」を分かち合える環境をモットーに、家庭的な環境のもとで自分らしく、安心と尊厳のある生活を営むことができるよう支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善目標に掲げた「年一回の健康診断の実施」は介護保険更新時に主治医意見書作成のため、通院する際に健康診断を行って頂くことを家族の理解と協力のもとに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の一連の過程を通じて、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が感じられる。討議の内容なども残されており、更なるステップアップに繋がる事が期待できる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	二ヶ月ごとに開催する運営推進会議では、行事や評価への取り組みを報告し、広く委員からの意見や助言をもらっている。特に先般の地震災害の事もあり、災害に対する取り組みについて更なる検討をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談、苦情受付窓口や特養窓口には投書箱を設置して気軽に意見や苦情を頂けるように努めている。家族等の安心確保及び利用者の近況報告のため、毎月「おたより」や写真入の「広報」を届けており、あわせて金銭管理の状況を報告している。また、倫理委員会を設け利用者や家族の代弁を図る等、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	民家から離れているため、ホームの近くで畑仕事をしている近隣の方々積極的に言葉交わしホームを理解して頂くように努めている。地元の小中学校の行事に出かけ交流を深めると共に、市の行事等にも積極的に参加している。針仕事の得意な利用者を中心に雑巾を手作りし、近隣の小中学校に贈って喜ばれており、できることから少しずつでも地域とつながりを持ちながら暮らしていけるように努力している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりが大切と考えているが、隣接する民家等は無。併設の特養やデイサービスの利用者、近隣の馴染みの人々と昼食を共にし、「潤いと安らぎのコミュニティ」をモットーに支援を図り、交流を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の運営方針を理念としホーム内の見やすい場所に掲示しており、日々職員が意識して実践に努めている。	○	運営方針を理念としているが、今後事業所が目指すサービスの根本的な考え方を理念とし、実践に活かされるような具体化したものを関係者で話し合い検討されることを望む。また、職員だけではなく、利用者や家族にも理解されるような簡単で短いキャッチフレーズ的な表現を検討中とのことなので、引き続き取り組みに期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小中学校からの招待で運動会、学習発表会などに参加し、交流を深めている。他のホームへの訪問や市の催しものにも積極的に出かけている。ホームの近くの畑で働いている方々にも積極的に言葉を交わしホームを理解してもらえよう努力している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の後、マニュアルや記録の見直しを行っている。身体拘束の承諾書を作成したが、拘束を行っていないため使用していない。年一回の健康診断は家族の協力のもと、定期通院時に行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは幅広い立場の人々で構成されている。ホーム内の行事や評価への取組状況を報告し、話し合いの機会を設けてサービス向上につなげるように活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所での課題について(特に災害等)、市の関係職員に実情を積極的に伝え、協議して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	体調、精神面での変化があったときは密に家族に報告をしている。月一回家族へのお便りで利用者の近況を報告しており、広報は写真入りで作成してホームの様子がよく分かるように工夫されている。利用者ごとの預かり金管理台帳を記録しており、月末には管理者他2名の職員の確認を受け家族の来所時に確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情処理の担当者を設け対応している。法人全体の苦情処理箱を併設の特養玄関に設置している。法人の倫理委員(5人)が二ヶ月ごとに利用者から意見等の話を聞き取り、運営に反映させている。		地域密着型サービスでは家族と職員が馴染みの関係を作りやすい反面、家族が率直な意見を言いたいがたい状況になるので、外部の相談窓口や相談者など、事業所以外にも意見、苦情を表せる機会があることを繰り返し説明することも大切なことだと思う。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎日昼食を特養で摂っているので特養の職員とも顔馴染みの関係ができており、異動があってもスムーズに行えるように配慮されている。また、異動の人数も最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人内の各事業所が持ち回りで研修を行っている。研修には積極的に参加させ内部研修で講師を務めるなど、研修に参加する機会を多くして意識や知識を高め合っている。資格試験の挑戦には事業所のレベルアップにつながるの思いで後押しをしている。		個別対応や柔軟な支援が求められる地域密着型サービスの実践力を身につけていくためには、職員が日々の体験を学びにつなげていく意欲と努力が求められる。現場で共に考え、助言する知識と実務に精通したベテラン職員が確保された当事業所では、その機能の活用が期待できる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北地区のグループホーム協議会で行っている研修や交流会に参加している。近隣のグループホームにも積極的に見学に行き、交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の特養のショートステイやデイサービスを経て来た利用者がほとんどで、利用者と職員とは顔馴染みの関係ができていたため、混乱を起こすことなくスムーズに利用されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として尊敬し、生活の達人として生活の技(畑仕事、料理、家事等)を学び支えあう関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人が話したことを書き留めておき、全職員が目を通して利用者の希望や意向の把握に努力している。表現の困難な人の場合でも表情や行動を観察し把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活の観察を大事にしており、三ヶ月ごとに介護計画の見直しを行い、本人本位の状況、家族の意向、関係者からの情報を得て計画を作成している。作成後は家族に説明を行い、了承のサインを頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月ごとに計画の見直しをしているが、体調や精神的な変化など見直しが必要になった時にはその都度話し合いの機会を設け、見直しをしている。作成後は家族に了承のサインを頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診は原則家族が行うことになっているが、家族の都合がつかない場合等はヘルパー対応で行い、送迎は事業所の車で対応している。月に一度馴染みの美容院を利用する入所者もいて、送迎は車で対応して喜ばれている。外出や趣味活動もできるだけ実現できるよう対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの馴染みの主治医との関係を切ることなく継続的に医療が受けられるよう支援している。転院する場合は紹介状を頂くなど、医療がスムーズに行えるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の大きな関心は終末期のケアであり、アンケート調査等で本人や家族の意向を確認しながら併設の特養との連携で支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人のプライバシーを確保するため、日常の言葉かけ等にも注意を払っており、記録類が適切に保管されている。また法人内では各部所長、副施設長で構成する個人情報委員会を設置し、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事、通院や日常生活等、主体は常に利用者であり利用者の希望に沿った支援になるよう、利用者が気持ちを素直に表せるように聞く態度や表情に気をつけて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食は併設の特養を利用しているが、それ以外の食事の準備は当番制で職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能となっており、体調不良等の場合は時間をずらしたり、清拭に替えて対応している。夜間の入浴には対応していないが、夜間以外はある程度時間を自由にし、入浴を楽しめるようにしている。毎日入浴があることで体調の変化を発見しやすい状況になっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を事前に把握し、野菜作り、手芸等本人が楽しく生活できるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所での買い物や、敷地内の散歩を利用者の希望により1日3回程度実施している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、敷地内では自由に散歩ができるように支援し、夜間は防犯上施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは毎月1回、また、法人全体で年2回地域の消防団の協力を得て、災害時の避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士の指導を得ながら、利用者全員の食事量や栄養バランス、水分摂取量等をチェックし記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にはガーデニングを楽しめるスペースがあり、いろいろな花が植えられている。また、玄関や食堂には季節の花が飾ってあり季節を感じる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や自宅で使い慣れた愛着のある家具等が置いてあり、馴染みのものに囲まれ安心して過ごせるように配慮されている。		